

令和2年度浄土宗総合学術大会 2020年9月11日
パネル「ウィズ・コロナ時代に寺院はどう向き合うか」

新型コロナウイルスがもたらした影響

—寺院向けWeb調査より—

大正大学 専任講師 高瀬顕功

はじめに

- 大正大学地域構想研究所BSR推進センターでは、「仏教者の社会的責任」という観点から、従来、社会貢献活動とみなされてこなかった法務も含めて、社会的役割を足下から見つめ直す活動を行ってきた。
- 葬送儀礼の簡略化、多様化がみられる中で、今回のコロナ禍は、葬送儀礼がさらに変化する転換点となるかもしれないという仮説に立ち、同センター研究員の小川有閑先生（玉川組蓮宝寺住職）とともに寺院関係者向けにWEB調査を実施。
（期間：2020年5/7～5/24、方法：Google FormによるWEB調査、有効回答数：517名）
- 本発表では、この調査結果に基づき、法務への影響に焦点化して報告する。

調査の目的

- 1) 新型コロナによる法務への影響の把握
- 2) 上記に対する実践知・経験知の集約と共有
- 3) 個々の寺院が抱える不安や課題の集約、可視化
- 4) 不安にある人々への発信等、寺院・僧侶の取り組みの集約と共有

質問票の構成

1. 葬儀における変化（多項目選択式・複数回答）
2. 法事における変化（多項目選択式・複数回答）
3. 葬儀や法事の際の対応（多項目選択式・複数回答）
4. 月参り・月例行事・定期行事の実施方法（多項目選択式・単一回答）
5. 問4における「形を変えて実施」の具体的な内容（記述式）
6. その他行事への影響（記述式）
7. 檀信徒からの新型コロナに関する相談（記述式）
8. 新型コロナの影響に関する不安や心配事（記述式）
9. 新たに始めたこと（記述式）
10. 今後取りうる対応（記述式）
11. 現在、社会に発信していること（記述式）
12. 今後、社会に発信していきたいこと（記述式）
13. その他、意見や感想（記述式）

今回の報告で扱う部分

調査結果

単純集計と地域別比較

- 特定警戒都道府県と非特定警戒県
- 特定警戒都道府県中、首都圏（一都三県）と関西三県

回答者の属性

寺院の所在地

北海道	17	滋賀県	21
青森県	8	京都府	18
岩手県	3	大阪府	35
宮城県	5	兵庫県	20
秋田県	10	奈良県	7
山形県	10	和歌山県	2
福島県	11	鳥取県	1
茨城県	12	島根県	4
栃木県	5	岡山県	0
群馬県	7	広島県	11
埼玉県	17	山口県	7
千葉県	14	徳島県	0
東京都	63	香川県	6
神奈川県	34	愛媛県	5
新潟県	5	高知県	2
富山県	20	福岡県	17
石川県	10	佐賀県	5
福井県	4	長崎県	5
山梨県	5	熊本県	4
長野県	4	大分県	5
岐阜県	4	宮崎県	2
静岡県	29	鹿児島県	2
愛知県	27	沖縄県	0
三重県	13	その他(国外)	1
		合計	517

所属の宗派

浄土真宗(各派)	191
浄土宗(各派)	149
曹洞宗	38
真言系(各派)	36
日蓮宗	30
臨済宗(各派)	22
黄檗宗	17
天台宗	15
時宗	9
融通念仏宗	2
その他	8
合計	517

回答者の立場

住職	350
副住職	131
寺庭(坊守)	11
その他	25
合計	517

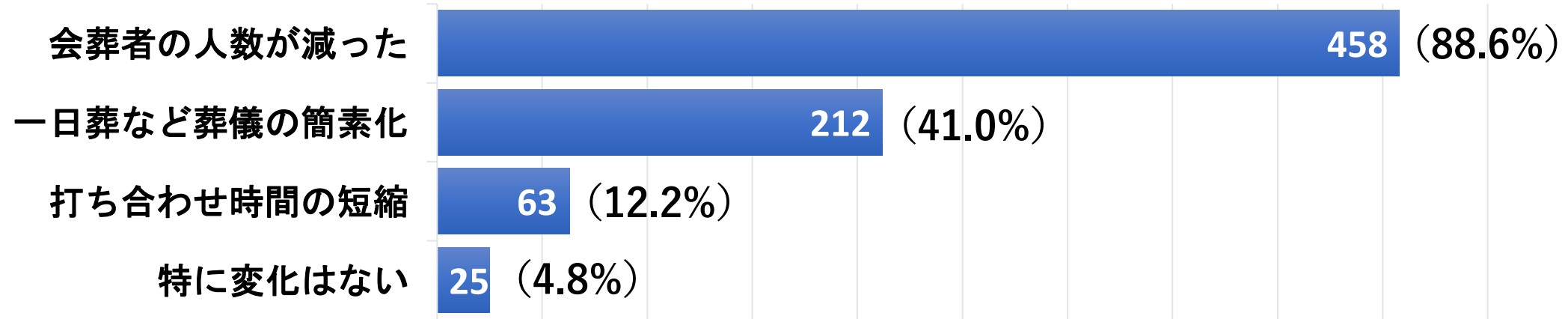
回答者の年齢

20代	25
30代	115
40代	211
50代	118
60代	38
70代	10
80代以上	0
合計	517

回答者の性別

男性	479
女性	36
その他	2
合計	517

1. 葬儀についてどのような変化がありますか（複数回答可）



(回答者 517名)

その他（自由記述）の主なもの

◇期間中に葬儀を行っていない（24件）

◇湯茶提供・会食がなくなった（20件）

◇少人数化、焼香の分散などの防密対策（15件）

例）読経と参列者の焼香の時間を分けるようになった／会葬者は式前に焼香だけして帰るようになった

◇簡素化の補足（12件）

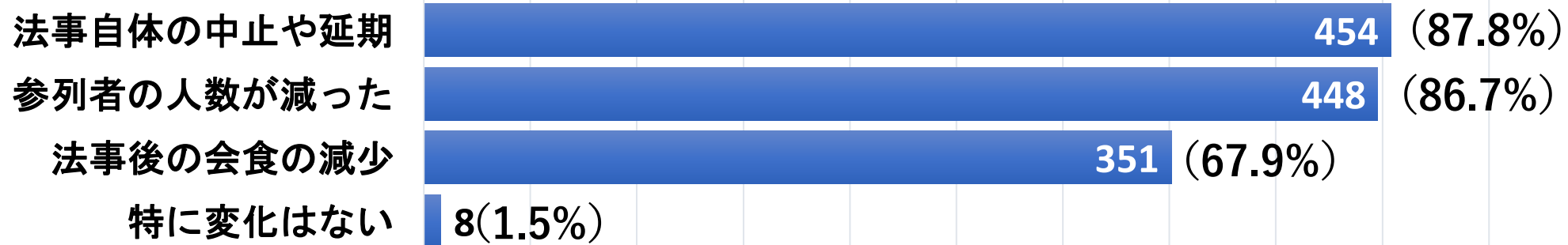
例）火葬のみ（いわゆる炉前読経もなし）で葬儀を実施せず、忌明・納骨法要から行いたいという依頼があった

◇会葬者のマスク着用や消毒の徹底、間隔をあけるなどの対応が見られる（7件）

◇火葬場や自治体による制限（4件）

例）市が一つの部屋の会葬者を10人以下にするよう通達している／火葬場の同行が4名までに制限されている

2. 法事についてどのような変化がありますか（複数回答可）



その他（自由記述）の主なもの

（回答者 517名）

◇延期・中止の補足（6件）

例）施主はやりたいと思っけていても、親戚や家族に高齢者（高リスク者）がおり、延期したいとの申し出が多いように感じる

◇場所の変化（6件）

例）家ではなく、本堂で法事をするが増えた／墓でやってほしいとのリクエスト

◇無参列法要の実施（遠隔法要含む）（4件）

例）寺院に伺えないので、お経をあげておいてくださいという依頼が2件ほどあった／YouTube法事、住職のみ本堂で法事

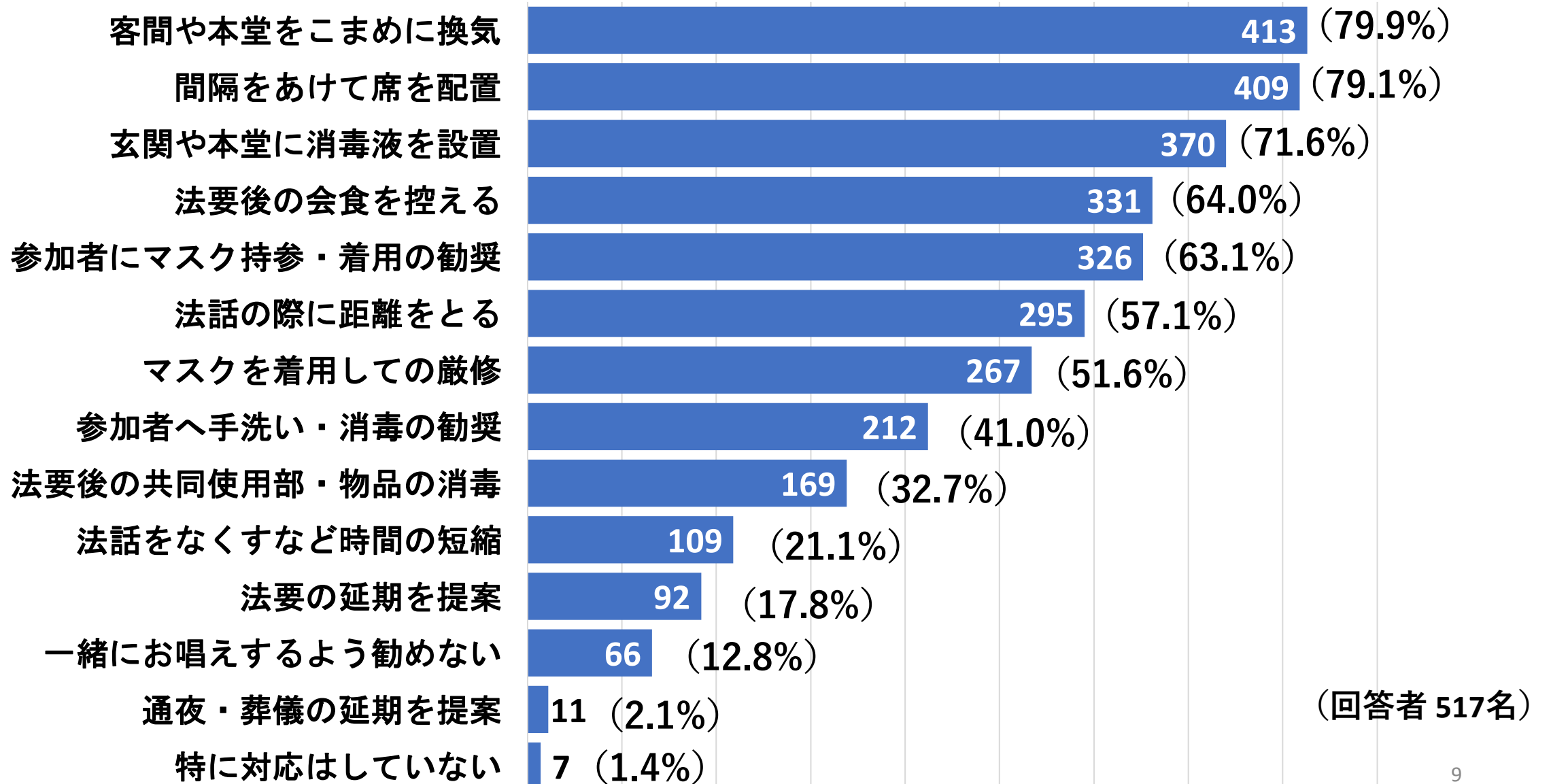
◇自治体等の制限（2件）

例）仏教会で法事は家族だけと決め、会食は行わないとしました／州の規則で禁止（国外）

◇未分類

例）本堂での除菌の方法や対策を尋ねられる／コロナで収入が減ったので、御布施を減額要求されている／塔婆の申し込み本数の減少

3. 葬儀や法事の際に特別に取っている対応はありますか（複数回答可）



4. 現在、以下の檀務・法務・定例行事をどのように行っていますか

■ いつも通り行っている ■ 形を変えて行っている ■ 見合わせている ■ そもそも行っていない

月参り



実施している265件中106件に影響あり (40.0%)

定期的に行う行事

(写経会・法話会・座禅会等)



実施している433件中415件に影響あり (95.8%)

毎年行うイベント

(落語会・コンサート等)



実施している283件中279件に影響あり (98.6%)

(回答者 517名)

地域別の実態—特定警戒都道府県と非特定警戒県

特定警戒都道府県	
北海道	17
茨城県	12
埼玉県	17
千葉県	14
東京都	63
神奈川県	34
石川県	10
岐阜県	4
愛知県	27
京都府	18
大阪府	35
兵庫県	20
福岡県	17
合計	288

非特定警戒県			
青森県	8	奈良県	7
岩手県	3	和歌山県	2
宮城県	5	鳥取県	1
秋田県	10	島根県	4
山形県	10	広島県	11
福島県	11	山口県	7
栃木県	5	香川県	6
群馬県	7	愛媛県	5
新潟県	5	高知県	2
富山県	20	佐賀県	5
福井県	4	長崎県	5
山梨県	5	熊本県	4
長野県	4	大分県	5
静岡県	29	宮崎県	2
三重県	13	鹿児島県	2
滋賀県	21	その他(国外)	1
合計			229

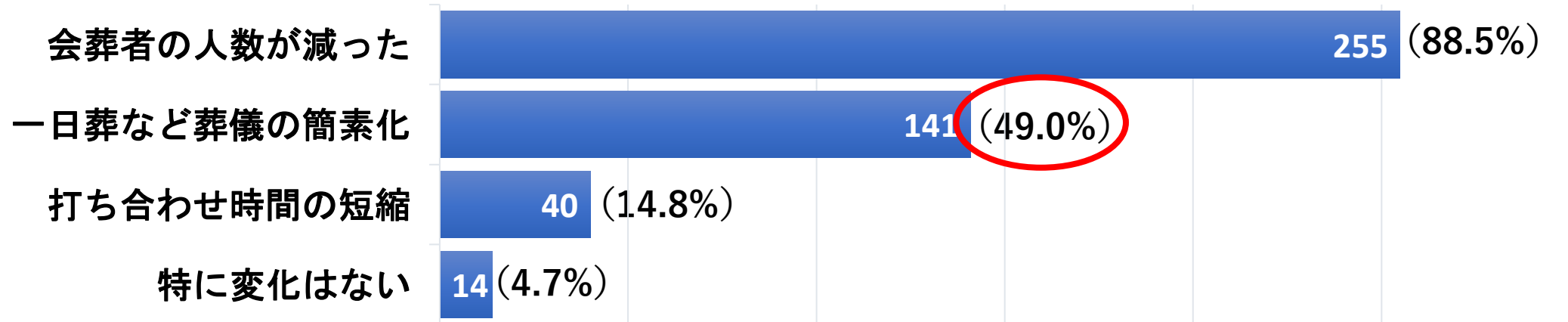
地域別の実態—首都圏（一都三県）と関西三県

		特定警戒都道府県	
首都圏 128名	北海道	17	
	茨城県	12	
	埼玉県	17	
	千葉県	14	
	東京都	63	
	神奈川県	34	
関西 73名	石川県	10	
	岐阜県	4	
	愛知県	27	
	京都府	18	
	大阪府	35	
	兵庫県	20	
	福岡県	17	
	合計	288	

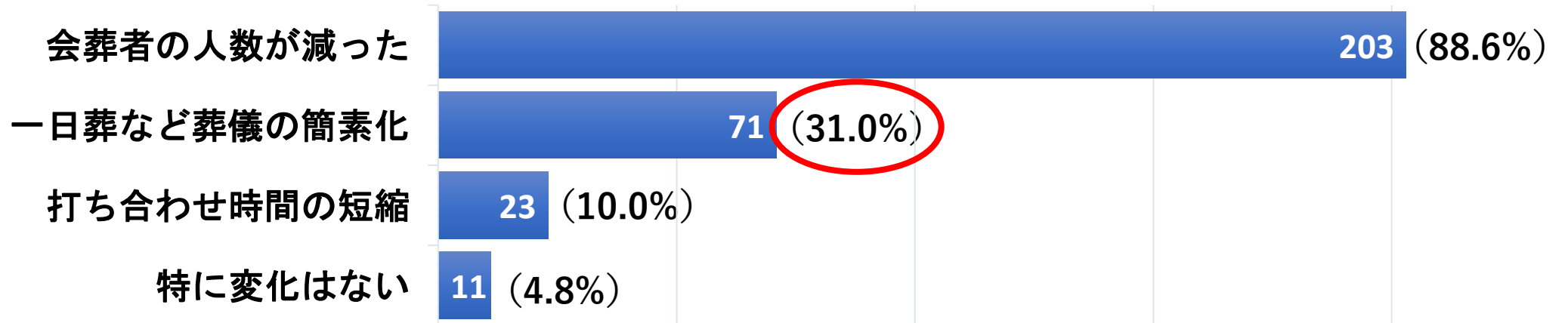
非特定警戒県			
青森県	8	奈良県	7
岩手県	3	和歌山県	2
宮城県	5	鳥取県	1
秋田県	10	島根県	4
山形県	10	広島県	11
福島県	11	山口県	7
栃木県	5	香川県	6
群馬県	7	愛媛県	5
新潟県	5	高知県	2
富山県	20	佐賀県	5
福井県	4	長崎県	5
山梨県	5	熊本県	4
長野県	4	大分県	5
静岡県	29	宮崎県	2
三重県	13	鹿児島県	2
滋賀県	21	その他(国外)	1
合計			229

1. 葬儀についてどのような変化がありますか（特定／非特定）

特定
(288名)



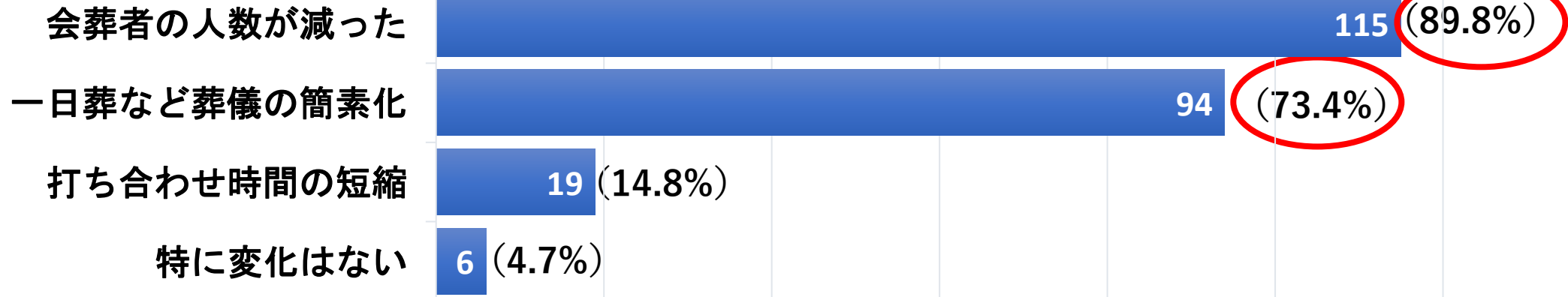
非特定
(229名)



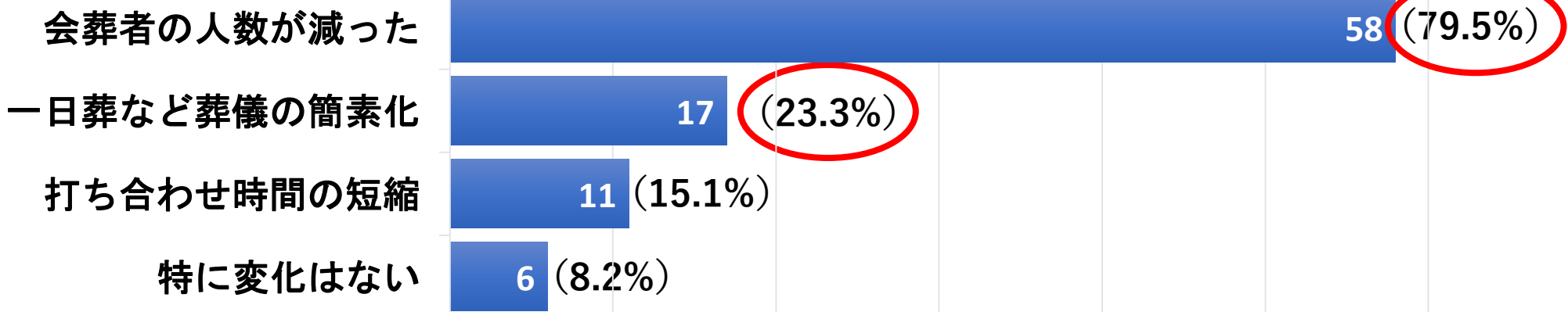
特定警戒都道府県で葬儀が簡素化される傾向

1. 葬儀についてどのような変化がありますか（特定首都圏／特定関西）

首都圏
(128名)



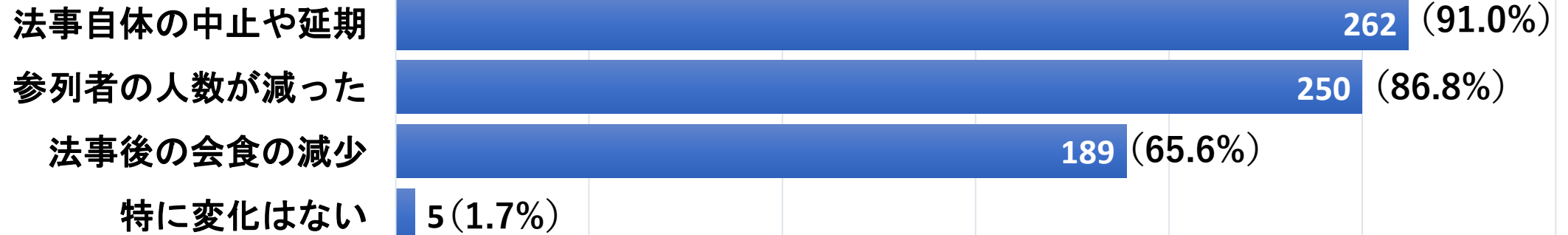
関西
(73名)



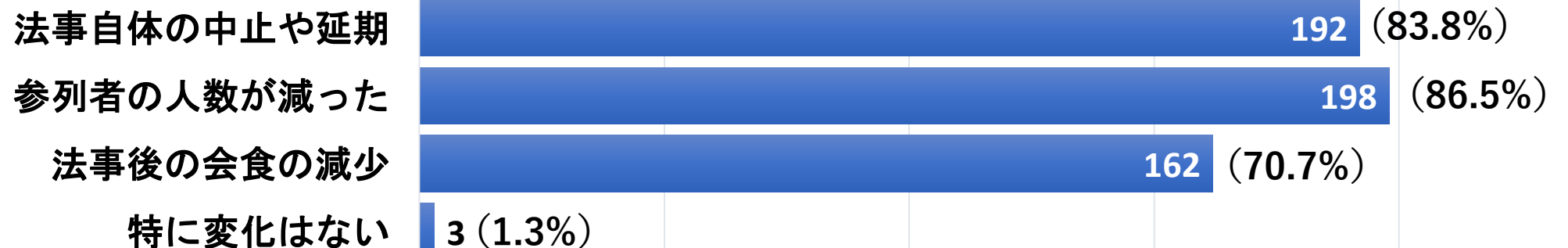
首都圏の葬儀の簡素化が顕著

2. 法事についてどのような変化がありますか（特定／非特定）

特定
(288名)



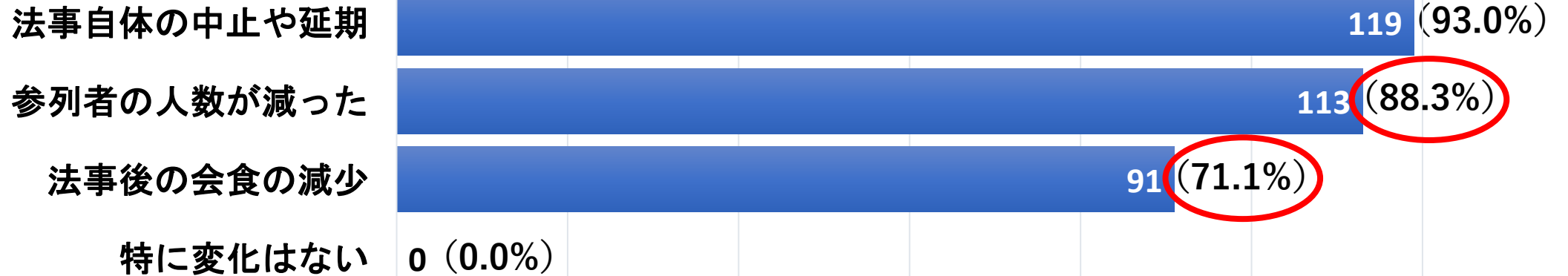
非特定
(229名)



法事に関しては大きな差はない

2. 法事についてどのような変化がありますか（特定首都圏／特定関西）

首都圏
(128名)

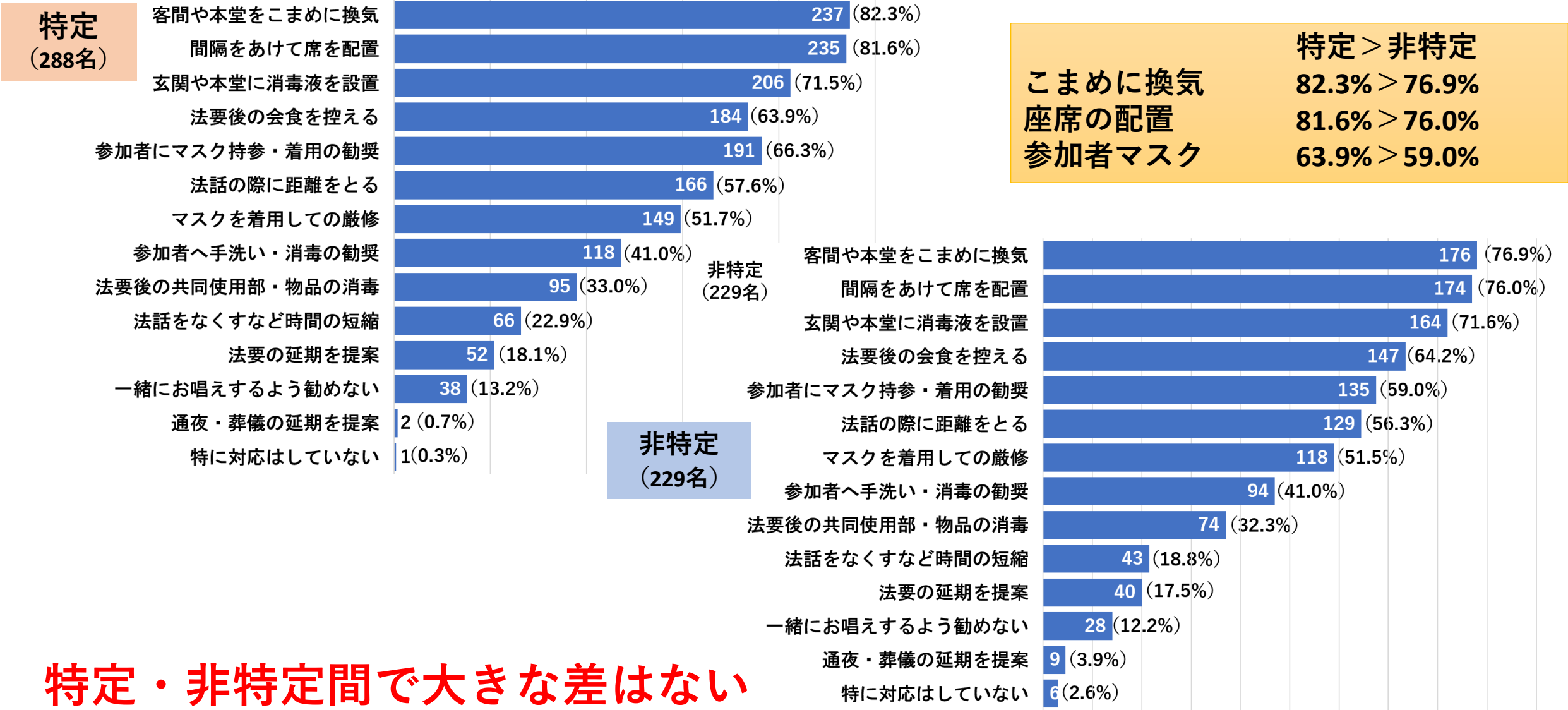


関西
(73名)



参列者数は首都圏の方が減少傾向、会食の東西の差は著しい

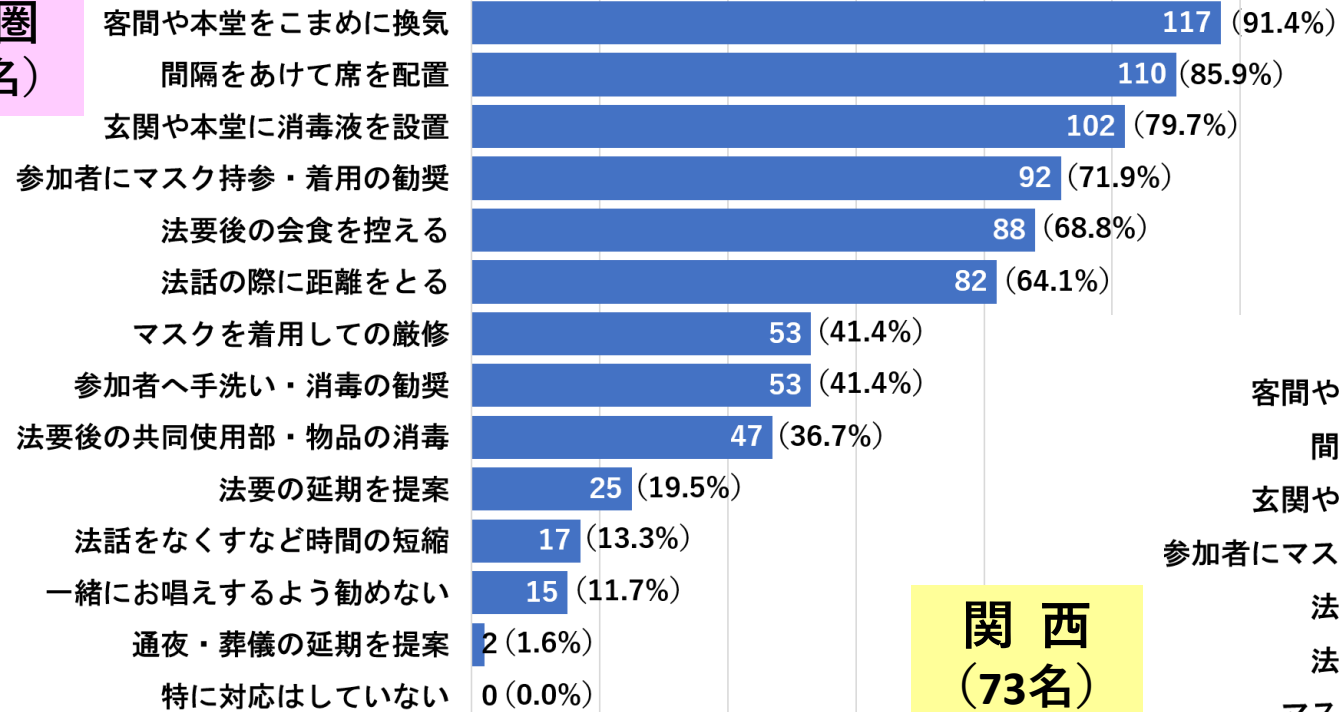
3. 葬儀や法事の際に特別に取っている対応（特定／非特定）



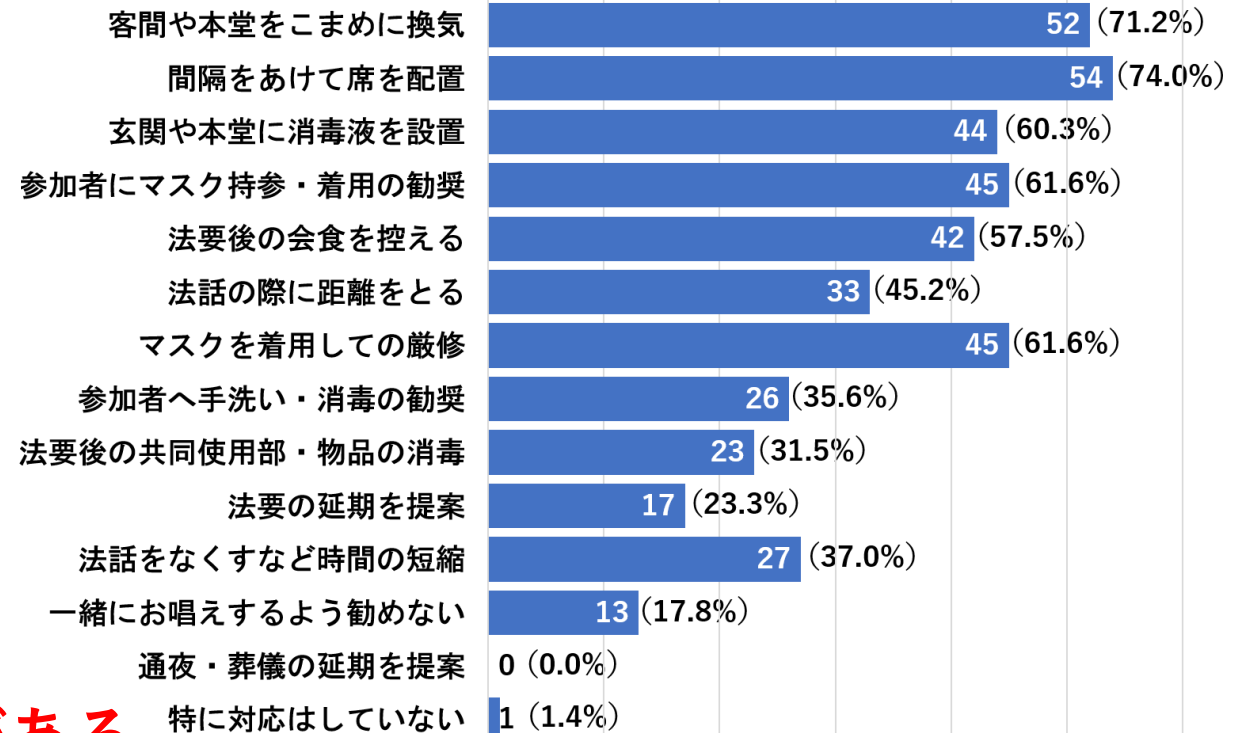
特定・非特定間で大きな差はない

3. 葬儀や法事の際に特別に取っている対応（特定首都圏／特定関西）

首都圏 (128名)



関西 (73名)



特定首都圏 > 特定関西

こまめに換気	91.4%	>	71.2%
座席の配置	85.9%	>	74.0%
消毒液設置	79.7%	>	60.3%
参加者マスク	71.9%	>	61.6%
法話で距離をとる	64.1%	>	45.2%

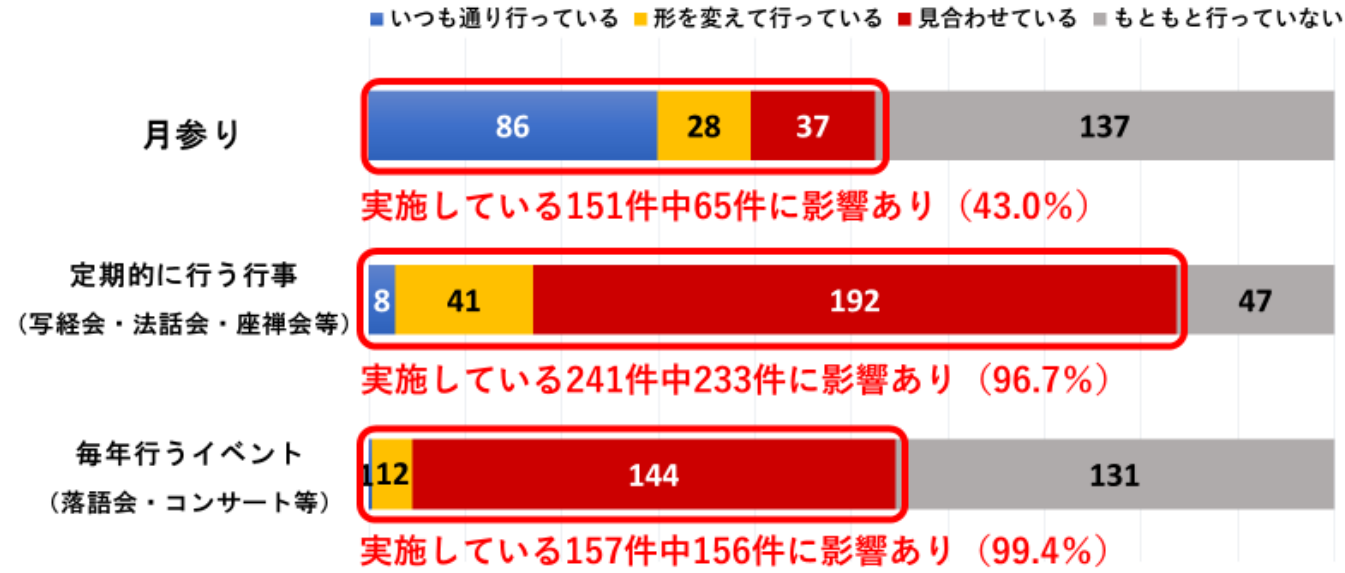
特定関西 > 特定首都圏

僧侶マスク着用	61.6%	>	41.4%
時間短縮	37.0%	>	13.3%

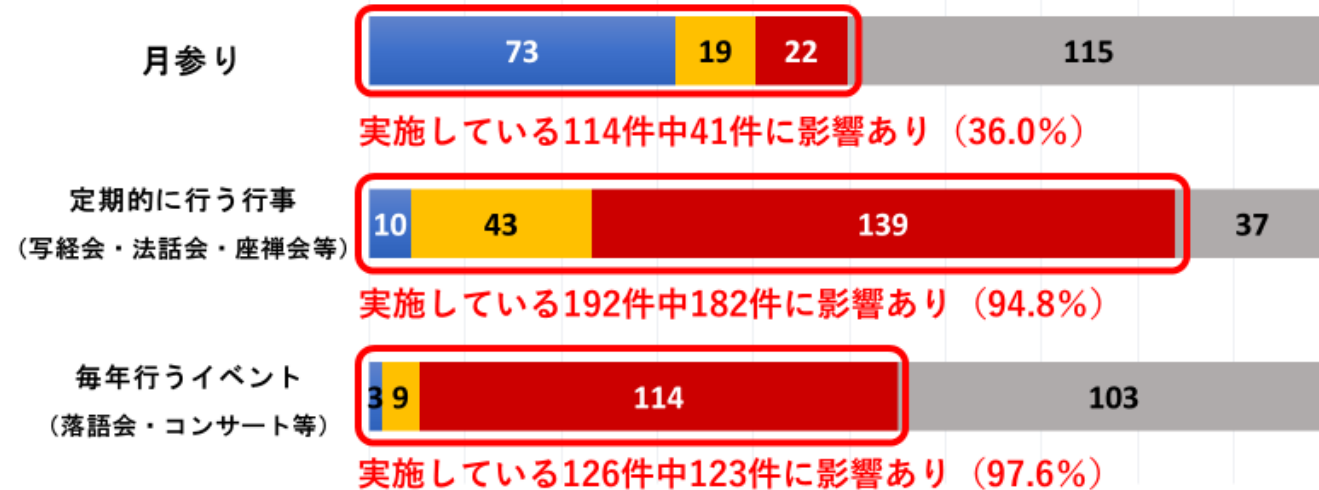
首都圏と関西では力を入れている対応に差がある

4. 現在、以下の檀務・法務・定例行事をどのように行っていますか (特定／非特定)

**特定
(288名)**



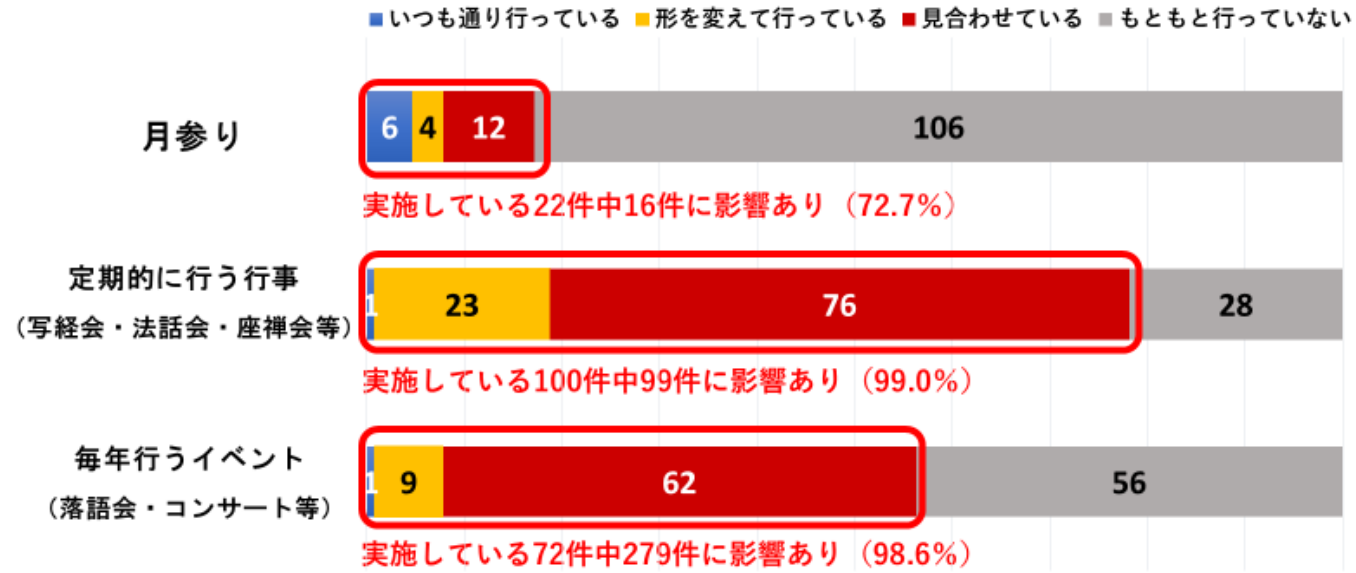
**非特定
(229名)**



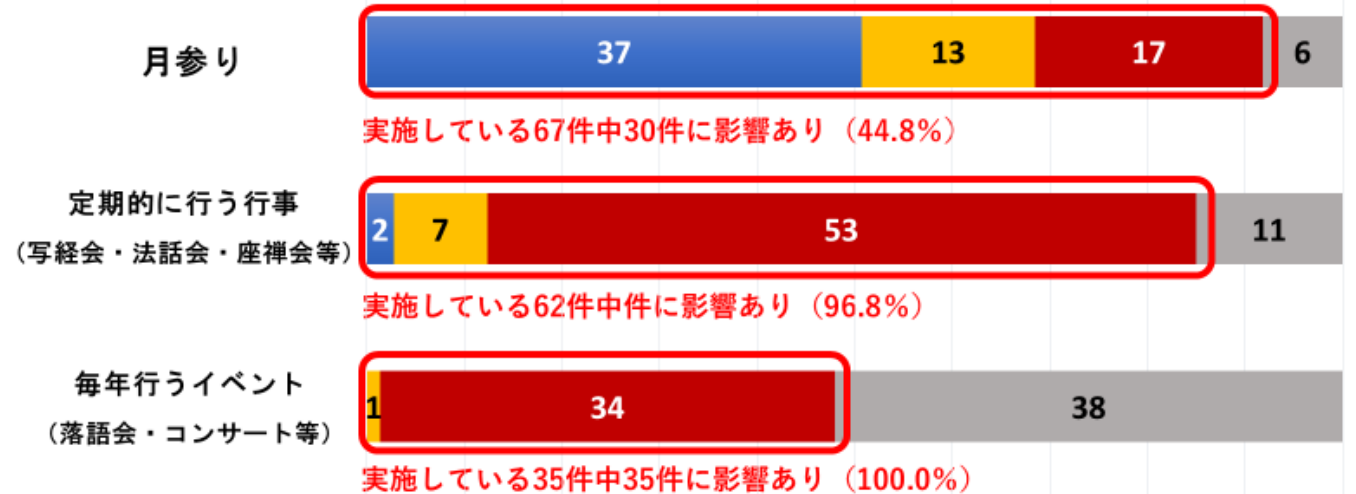
どちらも大きな影響を受けている
特定・非特定間で大きな差はない

4. 現在、以下の檀務・法務・定例行事をどのように行っていますか (特定首都圏／特定関西)

首都圏
(128名)



関西
(73名)



首都圏／関西の月参りの実施率とその影響には大きな差がある

考察

- 全国的に葬儀、法事の規模縮小（参列者の減少）が起きている
 - 集まることのリスク、移動のリスクを恐れた反応では
- 全国的に寺院の月例行事、年中行事が影響を受ける一方、月参りへの影響は比較的小さい
 - 寺院集合型の行事は密を避けづらくリスクが高いが、自宅訪問型は僧侶が感染対策を行っていればリスクは低いととらえられているのではないか
- 首都圏の葬儀の簡素化が顕著にみられる
 - コロナ禍前より一日葬が一般的な選択肢としてあった等の影響も考えられる
- 特定警戒都道府県／非特定警戒県との差より、首都圏／関西の差の方が顕著
 - 東西の文化の違いか、地域ごとに見ることが必要

まとめ

- 本調査はWeb調査のためサンプリングに問題があるものの、新型コロナウイルスによって全国的に寺院の行事は大きな影響を受けていることが明らかになった。
- 首都圏と関西でその影響に差があるため、葬送儀礼、寺院行事の実施状況には地域差があると考えられる。
- 葬儀や法事の参列者の減少や行事への影響は、寺院が檀信徒と接する場の減少にもなり、布教伝道、仏教文化の継承といった観点からの懸念もある。
- ただし、現在、開催を見合わせたり、形を変えて実施している行事が、以前の様に戻るか、このまま定着していくかを判断するには経年調査が必要である。

- 自由記述を含めた単純集計結果は、すでに大正大学地域構想研究所のウェブサイト上に公開しています。 (<https://chikouken.org/10879/>)
- 地域別の分析を含めた報告内容は、BSR推進センター『地域寺院』第52号（令和2年9月）に掲載中。
- 本調査に関するお問い合わせは、大正大学地域構想研究所・BSR推進センター（bsr_lab@mail.tais.ac.jp）、もしくは、高瀬顕功（a_takase@mail.tais.ac.jp）まで。



ご清聴ありがとうございました